

I. ごあいさつ

阪神電車をご利用いただくとともに、阪神グループにご愛顧賜りまして、誠にありがとうございます。また、平素より当社鉄道事業の運営にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 25（2013）年度の安全に対する取組みをご紹介します。

安全投資につきましては、施設の保安度向上を図るため、神戸市内と西宮市内における高架化工事や甲子園駅の改良工事等を実施しました。甲子園駅では、バリアフリー化を進めるため西改札口側の改札階とホームを結ぶエレベーターを上り線と下り線のホームに各 1 基新設し、平成 25（2013）年 10 月からお客様にご利用いただいています。今後も、お客様に安全、快適にご利用いただくため、プラットホームの拡幅やエレベーターの整備、コンコースの拡張等の工事を進めてまいります。

次に、安全管理の運用方法につきましては、当社では従来から「事故の芽・ヒヤリハット」の取組みとして、事故に至らない操業上の小さなミスや施設のトラブルの情報を収集し、原因分析を行い再発防止に活かしてきておりましたが、平成 25（2013）年度はこの取組みの目的を一層明確にし、実効性を高めるため、ヒューマンエラーに焦点をあて、情報の収集方法を見直しました。また、操業中、作業中に気づいた「ヒヤッとしたこと」「危ないと感じたこと」など安全上の懸念について、現場からの意見を吸い上げて組織全体で共有し、議論する仕組みをつくり、運用を始めました。

さらに、大規模災害時への備えとして、平成 24（2012）年度に実施した巨大地震・津波の発生を想定した規程類の見直しや設備面の対策を受けて、これらを定着させ、対策設備を有効に活用するための教育や訓練にも注力しました。

平成 25（2013）年度はこうした取組みを実施してまいり、安全目標であった「責任事故ゼロの継続」を達成することができました。しかしながら、平成 26（2014）年度に入り、無遮断の踏切への列車通過や車両の定期検査周期に係る国土交通省令違反を惹起いたしました。皆様にはご心配とご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。この反省を肝に銘じ、徹底的に原因を究明するとともに、再発防止に全力を挙げているところであります。お客様に安心・信頼していただける鉄道を目指して、これからも輸送の安全確保への取組みに邁進してまいります。



阪神電気鉄道株式会社
取締役社長

藤原 崇起

平成 26 年 7 月